

インフォメーション・コーナー

会 告

○2025年度(第74回)農業農村工学会大会講演会の開催情報 	70
○2025年度(第74回)農業農村工学会大会講演会の講演申込み  Web 投稿受付期間 3月1日～4月4日	70
○2025年度(第74回)農業農村工学会大会講演会における「企画セッション」の募集(再) 応募締切 2月14日	73
○2025年度(第74回)農業農村工学会大会講演会における「スチューデントセッション」の講演申込み Web 投稿受付期間 3月1日～4月4日	74
○2025年度(第74回)農業農村工学会大会講演会の企業展示および広告掲載申込み 申込締切 6月30日	75
○2025年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集 申請締切 2月15日	76
○2025年度「研究グループ」への助成希望者募集 申請締切 2月15日	76
○2025年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集 申請締切 2月15日	77
○2026年度 博士課程で取り組む研究課題を募集しています 応募締切 2月28日	78
○FAXによる図書注文を廃止します	79
○新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」、設計「頭首工」、設計「農道」の発刊	79
○お願い!! 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付	80
○学会誌・編集委員会 学生委員の募集 応募締切 3月31日	81
○CPD 認定基準の一部改正(2024年度から)―「その他の自己学習(x)」の上限値等の見直し―	81
○CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載	81
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	81
○「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	82
○改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内	83
○2026年の学会誌表紙写真の募集 応募締切 9月30日	84
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2024年7月から2026年6月までの編集体制と編集事務局	85
○令和6年度農業水利研究部会研究集会の開催  2月15日開催	86
○令和6年度東京フォーラム(農村振興研修会)「農業農村整備へのICTの導入」の開催  2月12日開催	86
農業農村工学会論文集 内容紹介	87
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム(一般参加可)一覧 	88
学会記事	90

会員のみなさまへ

本年度末で退会される方は、「退会届」をご提出ください。
様式は https://www.jsidre.or.jp/about_member/ にございます。

第93巻第3号予定

展望: 農業用ため池の管理保全, 防災重点農業用ため池防災・減災対策の推進: 志田麻由子

小特集: 令和6年能登半島地震の被害と課題

報文: 田園資源の活用による能登復興支援: 瀧本裕士ほか

報文: 令和6年能登半島地震による農地・農業用施設の被害: 森 丈久ほか

報文: 農村コミュニティ及び農業経営の復旧・復興の現局面と課題: 山下良平

報文: 流域環境を考慮した農業農村の復興のあり方: 粟生田忠雄

報文: 被災集水井の三次元実態検出に基づくデジタルツインの実装: 鈴木哲也ほか

技術リポート

北海道支部: ため池の堤体押さえ盛土に適した土取場候補地の概定: 菅原 央ほか

東北支部: 山形県の圃場整備における ICT 施工の実施事例: 阿部志美ほか

関東支部: 埼玉県営農地防災事業古利根堰地区における ICT の活用: 行本 航ほか

京都支部: 排水機場における渦発生抑制技術の採用による管理負担軽減: 兼定健博ほか

中国四国支部: ICT を活用した圃場整備工事: 清水翔太

九州沖縄支部: 頭首工における取水ゲートの遠隔操作システムの導入: 江頭 仁ほか

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、新型コロナウイルス感染症防止対策等により、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこととございます。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2025年2月 12日	全国農村振興技術連盟 農業農村工学会	令和6年度東京フォーラム	ⓑ 農業農村整備へのICTの導入	東京都	93巻2号
2025年2月 15日	農業水利研究部会	令和6年度研究集会	ⓑ 農業水利における気候変動対策	東京都	93巻2号
2025年3月 7日	材料施工研究部会	第61回シンポジウム	ⓑ 産学官連携の施工技術検討業務による教育・研究と人材育成	佐賀市	92巻11、12号 93巻1号
2025年9月 2～5日	大会運営委員会	2025年度(第74回) 農業農村工学会大会講演会	—	宇都宮市	92巻12号 93巻1、2号

2025年度(第74回)農業農村工学会大会講演会の開催情報

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



2025年度(第74回)農業農村工学会大会講演会は、宇都宮大学陽東キャンパスにおいて開催を予定しています。

1. 開催期日

講演会 : 2025年9月2日(火)～4日(木)
交流会 : 2025年9月2日(火)
現地研修会 : 2025年9月5日(金)

2. 会場

開会式、学会賞授与式 : ライトキューブ宇都宮
講演会 : 宇都宮大学陽東キャンパス
交流会 : ホテルニューイタヤ

3. 運営委員長

宇都宮大学農学部 田村孝浩

4. スケジュール

第93巻第2号(本誌)
・「一般発表(口頭発表、ポスター発表)」の講演申込み
・「企画セッション」の募集(オーガナイザーとセッション・テーマの募集締切:2月14日(金))
・「スチューデントセッション」の講演申込み
・企業展示および広告掲載申込み
第93巻第5号
・参加申込み

2025年度(第74回)農業農村工学会大会講演会の講演申込み

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



2025年度(第74回)農業農村工学会大会講演会は、宇都宮大学陽東キャンパス(栃木県宇都宮市)において2025年9月2日(火)、3日(水)、4日(木)の3日間、および現地研修会を5日(金)に開催を予定しています。

開催方法は、発表者は原則、現地にて発表していただきます。聴講に関しては現地またはオンラインによる聴講を可能とする併用方式で開催いたします。なお、今回より、育児や介護などの理由により現地での発表ができない場合は、その理由を記して申込みいただき、委員会にて承認された場合、オンラインでの発表が可能となりました。

この大会講演会で講演発表を行いたい方は、下記要領にてお申込みください。今回のご案内は、講演申込みに関するものです。大会講演会への参加全般に関するご案内は、続報でお知らせします。

大会講演会の講演申込みはWeb上で行います。

URLは<https://www.jsidre.or.jp/zenkokutaikai/>です。

受付期間は2025年3月1日(土)～4月4日(金)です。

1. 講演要領

- (1) **講演資格**: 代表発表者は、本学会会員に限ります。講演申込みの際、会員番号が必要です。なお、代表発表者が非会員の場合は、学会ホームページの入会手続き(https://www.jsidre.or.jp/about_member/)を参照の上、4月中に入会手続きを完了してください。なお、講演申込みの際は入会手続きを選択してください。
- (2) **講演内容**: 学術講演会にふさわしい内容を備えたもので、原則として未発表のものを受け付けます。現場からの報告も歓迎します。
- (3) **講演部門**: 12部門あります。ただしプログラム編成上、希望した部門と実際の講演部門が異なる場合があります。
- (4) **講演方法**: 発表者は原則、現地での発表に限ります。ただし、育児や介護などの理由により現地での発表ができない場合は、理由を記してお申込みください。その内容を委員会にて審議し承認が得られた場合は、オンラインでの発表が可能となります。

(5) **発表形態および発表言語**：発表形態として「口頭発表」または「ポスター発表」および発表言語として「日本語」または「英語」のどちらかを講演申込み時に選択してください。発表は原則1人（共同研究の場合は代表発表者）1課題です。ただし、企画セッションもしくはスチュUDENTセッションと個人発表の各1件ずつの発表は認めます。個人発表者が複数の企画セッションで発表することは、プログラム編成上の理由から認めません。

- ① 「口頭発表」：パソコンのプレゼンテーションソフト等を使って口頭で発表する形式。
- ② 「ポスター発表」：ポスター展示会場において、会期中ポスターを展示するとともに、コアタイムと呼ばれる決められた時間帯にポスターを使って発表する形式。なお、オンライン上にも同じポスターを掲示します。
- ③ 講演プログラムならびにポスターの大きさやアップロード方法等については、7月上旬に大会専用サイトでお知らせします。

(6) **講演時間**：①口頭発表は1課題15分（質疑時間も含む）です。また、企画セッションは1セッション100分です。②ポスター発表では、会期中に60分のコアタイムを設定します。

(7) **要旨集**：(2)にあてはまるすべての原稿は要旨集として大会専用サイト上に収録します。必要に応じてダウンロードが可能です。

(8) **概要集**：講演申込み時の入力情報のうち、講演題目、発表者氏名、講演概要（200字以内）を、概要集に収録します。

2. 投稿要領

講演申込みの受付期間は従来どおりですが、今回より講演要旨のアップロードのみ後日でも行うことが可能となりました。詳細は下記(4)をご参照ください。

- (1) Web上から新規登録を行い、講演申込み料の納入をもって受付完了とします。送金の控えを画像データで、Web登録画面からアップロードしてください。
- (2) 講演申込料は2,750円（税込）です。郵便振替の場合は振込用紙に必ず大会講演申込み料と記入の上、「氏名」、「所属」を明記してください（郵便振替用紙は、郵便局に備えつけのものをご使用ください）。年会費等をまとめて支払う場合は内訳も明記してください。銀行振込（ネットバンキングも含む）の場合も同様に送金控えに明記してください。なお、送金後に発表を取り消されても、講演申込み料の返金はいたしません。

代表発表者（口頭発表の場合：口頭発表者、ポスター発表の場合：コアタイム説明者）が学生の場合、講演申込み料は無料（0円）です。その場合、学生である旨および指導教員の氏名を明記の上、アップロードしてください。

<振込先>

郵便振替：00160-8-47993

加入者名：公益社団法人農業農村工学会

銀行振込：みずほ銀行 新橋支店

普通預金 1167243

登録番号：T8010405010362

(3) 講演要旨は、図・表・写真などを含め1課題2ページです。後述の「3.講演要旨の書き方」に従い、執筆してください。

(4) 講演要旨ファイルはPDF形式でのアップロードとします。

今回より講演要旨のアップロードのみ後日でも行うことが可能となりました。下記の①～③により必ずアップロードしてください。

- ① 講演申込みと同時にアップロード
- ② 講演申込みの受付完了後、受付期間内（3月1日～4月4日）にアップロード（登録情報の変更可）
- ③ 講演申込みの受付期間終了後、5月9日までにアップロード（ただし、登録情報の変更不可）

注1) ②および③でアップロードする方法は大会専用サイトに掲載します。

注2) ③でアップロードする場合、講演申込み時の入力情報（講演題目、発表者氏名、200字概要）の変更は、プログラム編成上の理由からできません。

(5) 講演要旨PDFファイルはAcrobat DistillerまたはAcrobat PDF（アドビシステムズ社：Adobe Acrobatに付属）を使用し、すべてのフォントの埋込みをして変換したPDFファイルとしてください。PDFファイルに、セキュリティ（文書パスワード、セキュリティパスワード、印刷、文書の変更、テキストとグラフィックス選択、注釈とフォームフィールドの追加と変更）の設定はしないでください。

(6) 受付期間：2025年3月1日（土）～4月4日（金）

(7) 問合せ先

（公社）農業農村工学会事務局大会担当 宇津木

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階

TEL：03-3436-3418 E-mail：zenkokutaiikai@jsidre.or.jp

3. 講演要旨の書き方

(1) 用紙サイズは、A4判（横210mm、縦297mm）で、マージンは次のようにしてください（次ページ参照）。

上：25mm、下：27mm、左：23mm、右：25mm

(2) 書式

- ① 文字：文字は、11ポイントとしてください。標準フォントとして、MS明朝、MSゴシック、平成明朝、平成ゴシックをお使いください。特殊なフォントは極力使わないでください。また、機種依存文字（①、②、…Ⅰ、Ⅱ、…等）も使わないでください。上下左右のマ

ジン内いっばいに、1行40字、1ページ40行、横書きを標準として印字してください。文書作成ソフトによりこの組合せができない場合は、上下左右のマージン内に必ず収まるようにしてください。

- ② 題目・所属・氏名・本文：本文原稿の題目は、1ページ目の第1行と第2行に中央に寄せ、12ポイントで和英併記してください。発表者氏名は、第4行と第5行に中央に寄せ、10ポイントで和英併記してください。

また、連名の場合には代表発表者の前に必ず○印をつけてください。

所属は、1ページ目の本文の下に横線を引き、その次の行に左に寄せ、9ポイントで1行に和英併記してください。所属に続けてキーワード〔和〕（キーワード表参照）を書いてください。なお、発表者および所属

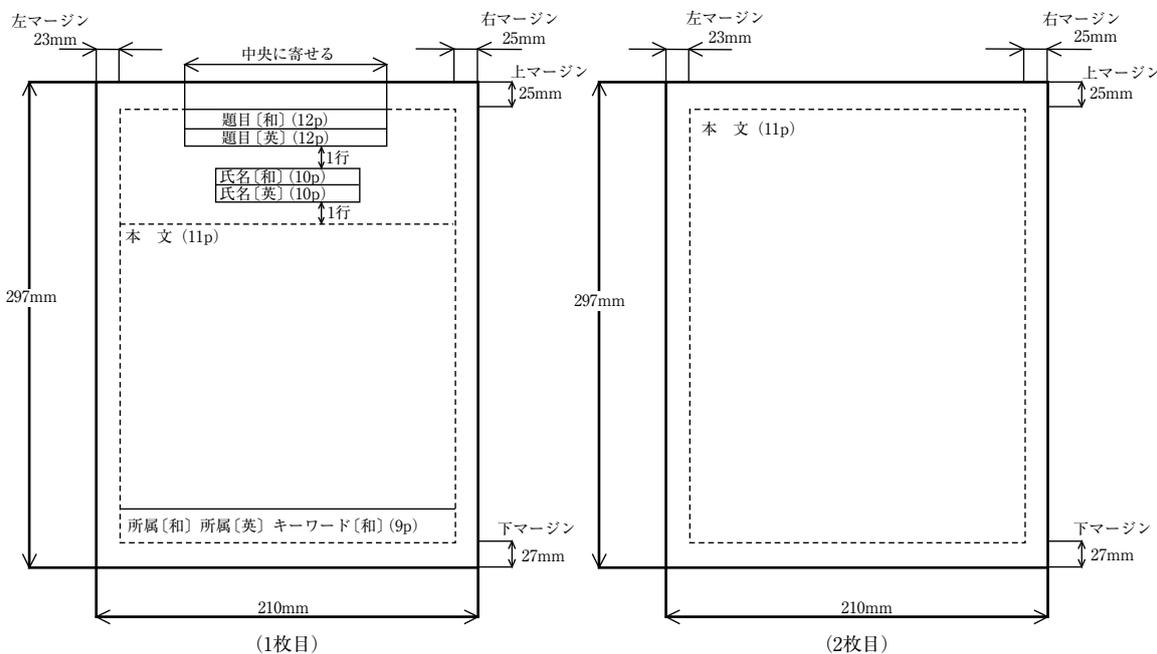
が複数ある場合は、発表者名の右上に*や**を付けて、発表者と所属が対応するようにしてください。

本文は、第7行から書き始めてください。2ページ目は第1行から書いてください。

- ③ 図・表・写真：本文とともに原稿内に、幅いっばいにならない図・表・写真は右側に寄せ、左側の空白に本文を書くようにしてください。また、図表の表題にも英語を併記してください。

4. 著作権

要旨集と概要集に掲載された要旨等の著作権（著作財産権、コピーライト）は、(公社) 農業農村工学会に帰属します。また、講演の概要等は科学技術振興機構（JST）に提供されます。なお、特許等の出願にかかる新規性の確保は講演者の責任で行ってください。



〈講演要旨の書き方 (例)〉

キーワード表

1. 水 理	2. 水文・水質・気象	3. 土 壤 物 理	4. 土 質 力 学
流体力学一般 管・開水路流れ 河口・感潮域の水理 土砂水理 河川工学 水利システムの計測・管理・制御 水環境・水質 水利構造物 水理学的波動 数値流体力学 水産土木	水文統計 水収支・水循環 降雨特性 流出特性 洪水流出 長期流出 浸透流 地下水 蒸発・蒸発散 気象環境 気象災害 水資源開発・管理 降雪・融雪 水質 エネルギー循環	土壌の物理化学的性質 土壌構造 間隙構造 水分移動 溶質移動 保水性 土壌空気 レオロジー コロイド・粘土 土壌の熱的性質 凍上・凍結 土壌の生成・分類 土壌環境と植物根系 土壌微生物・土壌動物 特殊土壌	土の静力学的性質 土の動力学的性質 地下浸透・地下水流動 圧密・締固め 斜面安定・土圧・支持力 土構造物の解析 土構造物の地震時挙動 基礎工 土の分類 地盤の変形 安定処理・地盤改良 土構造
5. 応用力学	6. 材料・施工	7. 灌 溉 排 水	8. 農地造成・整備・保全
構造物の静力学的性質 構造物の動力学的性質 地震工学 構造物の設計手法 逆解析 岩盤力学 構造物・地盤等の連成問題 固体力学 構造力学 数値解析	コンクリート材料 コンクリートの性質 鉄筋コンクリート 特殊コンクリート 配合設計 二次製品 工法・施工 管理 施工機械 リサイクル 安全性 舗装 金属材料・瀝青材料・高分子材料 建設残土・廃棄物	計画手法 水田灌漑 畑地灌漑 灌漑施設 灌漑水温 水質制御 用水管理 地表排水 地下排水 排水施設 排水管理	農地造成 圃場整備 農地保全 土層改良 土壌改良 農地の汎用化 緑化 土壌侵食 干拓 農地保全施設 海岸保全施設 アグロフォレストリー 砂漠化 農地環境
9. 農 村 計 画	10. 環 境 保 全	11. 生 態 環 境	12. 農 業 土 木 教 育
産業経済計画 社会計画 土地利用計画 水利用計画・水利権 農用地計画・整備 集落計画 集落排水 道路計画・整備 生活施設 生産施設 農村振興 中山間地域 農村景観	環境保全 環境影響評価 水環境 大気 土壌 物質循環 地球環境	生態系 生物多様性 緑地 親水 ビオトープ 環境教育	農業土木カリキュラム 教育改善・FD 教育手法 技術者育成 継続教育

2025 年度（第 74 回）農業農村工学会大会講演会における「企画セッション」の募集（再）

2025 年度（第 74 回）農業農村工学会大会講演会（9 月 2 日～5 日、宇都宮大学陽東キャンパス（栃木県宇都宮市））における企画セッションの「オーガナイザーならびにテーマ」を募集します。企画セッションの「企画」をお持ちの方はご応募ください。

開催方法は、発表者は原則、現地にて発表いただき、聴講に関しては現地またはオンラインによる聴講を可能とする併用方式で開催いたします。

企画セッションの利用としては、各種プロジェクトの成果発表、特定テーマに関する最新情報の紹介等を想定していますが、

会員の皆様の自由な発想で企画セッションをご活用ください。

企画セッションのタイプは、オーガナイザーが事前に発表者を予定する「クローズド・タイプ」、発表者をオーガナイザーが公募する「オープン・タイプ」、のいずれかです。

企画の申込締切は 2 月 14 日（金）です。申込みについては、下記サイトより次の 1)～4) の内容を登録してください。

<https://questant.jp/q/2025kikaku>

- 1) 企画セッションのタイプ：「クローズド・タイプ」または「オープン・タイプ」
- 2) 企画セッションのテーマ

- 3) オーガナイザーの氏名, 所属, 連絡先電話番号, E-mail
4) 企画セッションの概要 (200字以内)

なお, セッション数の関係上, 応募されたすべての企画セッションが採用されるとは限りません。また, 類似した企画が提案された場合や研究部会主催のシンポジウム等が別に企画されている場合は, 調整をお願いすることがあります。企画の採否については, 研究委員会より回答いたします。

「企画セッション」は, 特定のトピックについて, 原則100分間のセッションを, オーガナイザーが責任を持って企画・運営するセッションです。セッション内の進行は, 通常の発表スタイルはもちろん, パネルディスカッションや会場の聴衆を含めた討論方式等も可能です。ただし, セッションを単独の演者が独占する講演会のスタイルは認めません。各セッションとも, 最低2名以上の発表があることが前提です。なお, セッションの演者は非会員でも可能です。

企画セッションでの発表者は, 企画セッションと個人発表の各1件ずつの発表は認めますが, 個人発表者が複数の企画セッションで発表することは, プログラム編成上の理由から認められませんので各オーガナイザーは発表者選定に当たり, この点に十分留意してください。

なお, 各企画セッションの発表者は, 一般講演発表と同様に

Web上で講演申込みを行ってください。

企画セッションの講演申込料は, 講演回数にかかわらず, 1セッション当たり16,500円(税込)です。

今後のスケジュールは, 以下のとおりです。

1. オーガナイザーとセッション・テーマの募集締切
2月14日(金)
2. 研究委員会で採否決定後, 応募テーマの採否の決定通知
2月25日(火)頃
3. 「オープン・タイプ」セッション発表者の公募開始(発表希望者は各オーガナイザーに直接申し込む)
3月3日(月)頃
4. 「オープン・タイプ」セッション発表者の公募締切
3月24日(月)
5. 企画セッションの講演申込み締切
4月4日(金)

申込み・問合せ先

(公社)農業農村工学会事務局大会担当 宇津木
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階
TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494
E-mail: zenkokutaikai@jsidre.or.jp

2025年度(第74回)農業農村工学会大会講演会における「スチューデントセッション」の講演申込み

2025年度(第74回)農業農村工学会大会講演会は, 宇都宮大学陽東キャンパス(栃木県宇都宮市)において2025年9月2日(火), 3日(水), 4日(木)の3日間, および現地研修会を5日(金)に開催を予定しています。

開催方法は, 発表者は原則, 現地にて発表していただきます。聴講に関しては現地またはオンラインによる聴講を可能とする併用方式で開催いたします。なお, 今回より, 育児や介護などの理由により現地での発表ができない場合は, その理由を記して申込みいただき, 委員会にて承認された場合, オンラインでの発表が可能となりました。

この大会講演会では, 学生会員における講演発表の経験の場として, また, 全国の学生会員の学術交流をはかる場として, スチューデントセッション(口頭発表)を設けます。

スチューデントセッションでは優秀な発表を行った方を対象に優秀発表賞を決定し後日公表します。

このスチューデントセッションで講演発表を行いたい方は, 下記要領により, ふるってお申込みください。今回のご案内は, スチューデントセッションにおける講演申込みに関するものです。大会講演会への参加全般に関するご案内は, 続報でお知らせいたします。

大会講演会の講演申込みはWeb上で行います。

URLは<https://www.jsidre.or.jp/zenkokutaikai/>です。

受付期間は2025年3月1日(土)~4月4日(金)です。

1. 講演要領

- (1) 講演資格: 代表発表者は, 本学会の学生会員もしくは, 発表時点で学部を卒業あるいは大学院を修了後1年以内の会員に限ります。講演申込みの際, 会員番号が必要です。代表発表者が非会員の場合は, 学会ホームページの入会手続き(https://www.jsidre.or.jp/about_member/)を参照の上, 4月中に入会手続きを完了してください。なお, 講演申込みの際は入会手続きを選択してください。
- (2) 講演内容: スチューデントセッションでの講演内容は, 一般講演の発表のようにまとまったものでなく, 博士論文, 修士論文, 卒業論文として取り組んでいる研究の途中経過や展望でも可能です。また, 国営事業地区等フィールド調査学生支援事業の成果報告等も歓迎します。ただし, 発表には指導教員の同意が必要です。
- (3) 講演部門: 一般講演(口頭発表, ポスター発表)および企画セッションとは別のスチューデントセッションでの講演です。
- (4) 講演方法: 発表者は原則, 現地での発表に限ります。ただし, 育児や介護などの理由により現地での発表ができない場合は, 理由を記してお申込みください。その内容を委員会で審議し承認が得られた場合は, オンラインでの発表が可能となります。
- (5) 発表形態および発表言語: 発表形態は, 口頭発表(パ

ソコンのプレゼンテーションソフト等を使って口頭で発表する形式)に限りま。なお、スチューデントセッションでの発表は、1人(共同研究の場合は代表発表者)1課題です。ただし、「一般講演(口頭発表、ポスター発表)あるいは企画セッション」と「スチューデントセッション」での各1件ずつの発表は認めま。また、発表言語として「日本語」または「英語」のどちらかを講演申込み時に選択してください。

- (6) **講演時間**：1課題10分(発表8分+質疑応答2分)を予定しています(講演数により変更する場合があります)。
- (7) **要旨集**：(2)にあてはまるすべての原稿は要旨集として大会専用サイト上に収録します。必要に応じてダウンロードが可能で。
- (8) **概要集**：講演申込み時の入力情報のうち、講演題目、発表者氏名、講演概要(200字以内)を、概要集に収録します。

2. 投稿要領

講演申込みの受付期間は従来どおりですが、**今回より講演要旨のアップロードのみ後日でも行うことが可能となりました。**詳細は下記(4)をご参照ください。

- (1) スチューデントセッションの講演申込み料は無料(0円)です。
- (2) Web上から新規登録を行い、Web登録画面から学生である旨および指導教員の氏名を明記した画像データのアップロードをもって受付完了とします。
- (3) 講演要旨は、図・表・写真等を含め1課題2ページ以内とし1ページでも可能で。本誌71ページの「2025年度(第74回)農業農村工学会大会講演会の講演申込み 3. 講演要旨の書き方」に従い、執筆してください。
- (4) 講演要旨ファイルはPDF形式でのアップロードのみとします。
今回より講演要旨のアップロードのみ後日でも行うこ

とが可能となりました。下記の①～③により必ずアップロードしてください。

- ① 講演申込みと同時にアップロード
- ② 講演申込みの受付完了後、受付期間内(3月1日～4月4日)にアップロード(登録情報の変更可)
- ③ 講演申込みの受付期間終了後、5月9日までにアップロード(ただし、登録情報の変更不可)

注1) ②および③でアップロードする方法は大会専用サイトに掲載します。

注2) ③でアップロードする場合、講演申込み時の入力情報(講演題目、発表者氏名、200字概要)の変更は、プログラム編成上の理由からできません。

- (5) 講演要旨PDFファイルは、Acrobat DistillerまたはAcrobat PDF(アドビシステムズ社: Adobe Acrobatに付属)を使用し、すべてのフォントの埋込みをして変換したPDFファイルとしてください。PDFファイルに、セキュリティ(文書パスワード、セキュリティパスワード、印刷、文書の変更、テキストとグラフィックス選択、注釈とフォームフィールドの追加と変更)の設定はしないでください。

- (6) 受付期間：2025年3月1日(土)～4月4日(金)
- (7) 問合せ先
(公社)農業農村工学会事務局大会担当 宇津木
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階
TEL:03-3436-3418 E-mail:zenkokutaikai@jsidre.or.jp
- (8) 著作権
要旨集と概要集に掲載された要旨等の著作権(著作財産権、コピーライト)は、(公社)農業農村工学会に帰属します。また、講演の概要等は科学技術振興機構(JST)に提供されます。
なお、特許等の出願にかかる新規性の確保は講演者の責任で行ってください。

2025年度(第74回)農業農村工学会大会講演会の企業展示および広告掲載申込み

2025年9月2日(火)、3日(水)、4日(木)の3日間、宇都宮大学陽東キャンパス(栃木県宇都宮市)で開催します「2025年度農業農村工学会大会講演会」において、企業展示および大会講演会概要集に掲載する広告の募集を行います。企業展示もしくは広告掲載を希望される企業は、下記要領によりお申込みください。

1. 企業展示

宇都宮大学陽東キャンパスの屋内で行います。
※具体的な場所や条件はお問い合わせください。

2. 広告掲載

大会講演会概要集に掲載(A4判モノクロ印刷)します。
※概要集は大会参加者全員に配布します。

3. 料 金

- ① 広告1ページ 88,000円(税込)
- ② 広告1/2ページ 44,000円(税込)
- ③ 企業展示 110,000円(税込)
- ④ 広告1ページ+企業展示 176,000円(税込)
- ⑤ 広告1/2ページ+企業展示 143,000円(税込)

4. 申込方法

- (1) 企業展示および広告掲載の申込みはWeb上で行います。URLは<https://questant.jp/q/2025kigyou>です。申込みフォームに必要事項を入力して送信してください。企業展示の場合は、展示する内容(概要)および電源の要否を入力してください。基準面積は幅1.8m×奥行

き1.5mです。

手順は以下のとおりです。

- a (貴社) 広告または企業展示申込み
- b (大会事務局) 申込み受付後、貴社へ連絡
- c (貴社) 広告原稿の送付(広告の場合)、企業展示パンフレット用原稿の送付(企業展示の場合)
- d (大会事務局) 請求書の発送
- e (貴社) 振込み
- f (大会事務局) 領収書発送

- (2) 申込期限 2025年6月30日(月)
- (3) 振込先 後日、連絡担当者に直接ご連絡します。
- (4) 申込み・問合せ先
2025年度(第74回)農業農村工学会大会講演会事務局
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350
宇都宮大学農学部 松井宏之
TEL: 028-649-8638
E-mail: matsuih@a.utsunomiya-u.ac.jp

2025年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集

農業農村工学会では、平成3年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施しております。

2025年度は、規程第4条(1)の「特定の分野及び学術的分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業農村工学の国際交流の推進」、(3)の「若手研究者の育成」、(4)の「その他本学会が必要と認めたもの」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページ(<https://www.jsidre.or.jp/format/>)より申請書をダウンロードして、E-mailで学会事務局あてにお申し込みください。

記

1. 援助の対象

農業農村工学会の会員(学生会員を含む)、または会員により構成されるグループで代表者は論文集またはPAWE誌の購読者(援助決定後の購読も可)

2. 援助方針

- (1) 農業農村工学に関する特定の分野および学術的分野の調査・研究の推進に寄与すると思われる研究について援助する。

【運営要領】

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
- ③ ①、②以外の分野および学際的分野に関する調査・研究の推進
- (2) 2025年度中(2025年4月から2026年3月)に海外で開催される国際学術会議への出席費用の一部を援助する。なお、自ら研究発表等を行う若手会員とする。た

だし、発表が国際会議の主催者から受理されていなくても、申請は受け付ける。この場合、援助の可否については受理を条件として決定を行う。

【運営要領】

- ④ 国際学術会議への出席等の国際交流の推進
- (3) 若手研究者の研究に対して援助する。

【運営要領】

- ⑤ 若手研究者の育成の推進
- (4) その他本学会が必要と認めたものに対して援助する。

【運営要領】

- ⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進
- ⑦ 技術者育成のための調査・研究の推進

3. 援助金額

申請内容により学術基金運営委員会において決定する。

4. 申請締切 2025年2月15日(土)

5. 報告の義務

援助を受けた者は、申請内容に基づいた報告書を提出すること。その原稿は学会誌に掲載する。また、得られた成果を論文集またはPAWE誌に積極的に投稿すること。

6. 申込み・問合せ

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階
(公社)農業農村工学会 学術基金運営委員会
TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494
E-mail: new-suido@jsidre.or.jp

7. その他

助成金は2025年4月に送金します。

2025年度「研究グループ」への助成希望者募集

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則1件20万円程度、助成件数は3件程度です。

2025年度の申請締切は、2025年2月15日(土)です。助成金を希望される方は期限までに、所定の様式([https://](https://www.jsidre.or.jp/format/)

www.jsidre.or.jp/format/)で研究委員会委員長あて(E-mail: new-suido@jsidre.or.jp)にお申し込みください。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。
3. 助成：研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として1年とする。
4. 助成対象：申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。
 - (イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。
 - (ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。
 - (ハ) 「研究グループ」には代表者(本学会員)をお

- き、構成員は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。
- (ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締切日に40歳未満であること。
 - (ホ) 代表者は論文集またはPAWE誌の購読者(援助決定後の購読も可)であること。
5. 活動報告：助成金を受領した「研究グループ」は助成金受領後1年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意して作成し、研究委員会に提出すること。
 - 注1) 研究経過報告書の執筆に当たり、農業農村工学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷上がり1~2ページに収まるようにまとめること。
 - 注2) 「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。また、得られた成果を論文集またはPAWE誌に積極的に投稿すること。
 6. その他：申告書の内容について、研究委員会で審議した内容を採否通知に同封します。なお、助成金は2025年4月に送金します。

2025年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、大型科研費(SまたはA)やJST、各省庁のファンディング等の比較的大きな規模の競争的資金の獲得を目指す研究グループに対して助成を行います。助成額は、50万円(1件)です。

2025年度の申請締切は2025年2月15日(土)です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式(末尾参照)で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あてにお申し込みください。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「戦略的研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容(申請の意義、準備の状況、将来の展望など)を検討して、助成するグループを決定する。なお、この決定内容は学会長に報告する。
3. 助成：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」

を助成する。ただし、その助成は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先する。

4. 助成対象：申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。
 - (イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。
 - (ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員(本学会員以外も可)は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。
 - (ハ) 代表者は論文集またはPAWE誌の購読者(援助決定後の購読も可)であること。
5. 活動報告：助成金を受領した「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。また、得られた成果を論文集またはPAWE誌に積極的に投稿すること。
6. その他：申告書の内容について、研究委員会で審議した内容を採否通知に同封します。なお、助成金は2025年4月に送金します。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：2025年2月15日（土）

申込先：研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail：new-suido@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG名（または部会名） (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名（仮）
- (5) 研究の目的と内容（500字程度）
- (6) 研究資金申請応募先（予定）

2026年度 博士課程で取り組む研究課題を募集しています

農業農村工学会では、2026年度研究開始〔2025年度修士課程2年〕学生などを対象に、「農業農村整備技術に貢献する博士課程学生による調査研究活動への支援事業」（以下、「支援事業」という）についての研究課題を募集します。

以下の募集要領に従って、ふるってご応募ください。応募締切りは、2025年2月28日（金）17:00（厳守）までです。

募集要領

1. 趣旨

農業農村工学会（以下、「学会」という）は、「農業農村工学の進歩及び農業農村工学に関わる研究者・技術者の資質向上を図り、学術・技術の振興と社会の発展に寄与する」ことを目的としています。農業農村工学に関する重要な方針として、土地改良長期計画（令和3年3月23日閣議決定）があります。それを技術面から支えるのが「農業農村整備に関する技術開発計画（令和3年11月公表）」であり、そこに示された「あるべき農業・農村の姿」の実現に資する重要課題に速やかに取り組むことが求められています。

一方で、大学改革の推進や少子化の影響により、これらの課題に取り組む若手研究者が不足し、人材の確保と育成が学会の喫緊の課題となっています。

そのため、博士後期課程に進学し、研究に取り組もうとしている学生などの研究活動を支援するため、学会では、（一財）日本水士総合研究所（以下、「水士総研」という）（<http://www.jiid.or.jp>）の公益目的事業である「農業農村整備事業に関する調査研究」からの委託などを活用して、「支援事業」を創設し、博士後期課程学生への研究課題に対する支援を行います。これにより、農業農村整備技術の向上を図るとともに、関連する人材の確保と育成を目指します。

2. 対象者、募集人員および取り組む研究課題

【2025年度末（2026年3月）支給開始対象者】

2025年度、修士課程2年（博士前期課程2年）在学の学生もしくは、その既修了者で2026年度に博士後期課程（一般）〔社会人コース等を除く〕に入学見込みの40歳未満（2026年度末時点）の本学会の学生会員または正会員を対象とします。なお、募集時点で学会の会員でない申請者については、採用後に学生会員に入会することを要件とします。

今回（2025年度）募集する研究課題数は、5課題以内です。なお、現在博士後期課程に在籍している学生や社会人の博士後期課程学生は、支援事業の対象としません。また、日本学術振

興会の特別研究員制度との併願は可能ですが重複受給はできません。その他の奨学金や助成制度による支援を受ける学生の重複受給は可能です。ただし、支援事業に研究課題が採用された場合には、現在受給している他の支援金を引き続き受け取ることが可能かどうかを、必ず相手先に確認してください。

採用後に取り組む研究課題は、令和3年3月23日に閣議決定された「新たな土地改良長期計画」を技術面から支える「農業農村整備に関する技術開発計画」に資する研究課題とします。考えている研究課題と技術開発計画との適合性など確認したいことがありましたら、気軽に事務局に問合せ願います。

- (1) 土地改良長期計画の策定について：農林水産省(<https://www.maff.go.jp/j/nousin/sekkei/totikai/index.html>)
- (2) 農業農村整備に関する技術開発計画（令和3年11月26日公表）
<https://www.maff.go.jp/j/nousin/gijutukeikaku.html>

3. 支援対象学生への支援体制

支援事業に採用後、研究課題に取り組む場合、研究課題に適した国営事業等の研究フィールドの提供、学会が行っている学術基金や関係機関による調査研究費の支援など多角的な研究課題推進のための支援体制を組みます。さらに就職においては、学会が構築する「博士人材マッチングシステム」の活用が可能です（学会ホームページ <https://www.jsidre.or.jp/career-path/> を参照）。

4. 支援事業の規模

支援事業の規模は、1研究課題当たり年間100万円とします。農業農村整備に関する技術開発計画に資する研究活動に使用するほか、研究活動を円滑に行う上で必要不可欠な経費の支出についても認めます。支援期間は、博士後期課程の3年間とします。なお、途中で事業の趣旨に沿わない研究課題に変更した場合および日本学術振興会の特別研究員制度を利用する場合は、支援を中止します。また、留年した場合でも支援期間は延長しません。留学や休学等で当該課程での活動を休止した場合は、支援を中断します。その場合、すでに支出した支援金については返還を求めるとはしません。

5. 研究支援金の支払先

学会から学生個人の預金口座に1年目は前年度末、2年目以降は年度当初に振り込みます。

6. 選考方法

(1) 書類審査

申請に必要な書類は次の3種類です。

- ①進学しようとする博士後期課程、支援希望動機と取り組む研究課題名とその内容を記載した申請書(様式1, 顔写真添付)
- ②指導教員(応募時点)の推薦書(様式2)
- ③これまでの業績リスト(様式3)

(2) 面接審査

上記(1)書類審査の結果により面接を行います。

(3) 研究課題の決定

学会に設置した「博士人材育成研究小委員会」において、書類審査および面接審査の結果を総合的に勘案して研究課題を決定します。

7. 研究課題を行う学生の義務

研究課題を行う学生は、所定の様式(様式4, A4, 2ページ, 最終年度は4ページ)に沿って、年度末に指導教員の了解を得た年間研究活動内容を示す報告書を提出していただきます。また、水土総研におけるアシエイト・アドバイザーとなり、要請に基づき協力活動を行っていただきます。

アシエイト・アドバイザーの協力活動は、毎年水土総研が開催する意見交換会での研究活動内容の報告、調査研究発表会での研究成果の発表と意見交換、また、「大学生の農業農村体験研修会」における協力などです。

なお、これらの出席に必要な旅費等は、水土総研から別途支給します。

8. 研究課題の募集期間および選考時期

募集期間 2025年1月1日(水)9:00~2月28日(金)

17:00(厳守)

面接 2025年4月中旬以降

内定 2025年5月末

9. 博士課程(後期)修了後の就職先と返還の扱い

学会が構築する「博士人材マッチングシステム」に登録した場合、農業農村整備技術分野の求人情報を提供します。ただし、これは就職を制限するものではなく、就職先の業種や専門性によって支援事業の返還を求めることはしません。

10. 申請の方法

学会ホームページ(<https://www.jsidre.or.jp/career-path/>)より、申請様式1~3(Wordファイル)をダウンロードして必要事項を記入の上、E-mailの添付ファイル(Wordファイル)にて「8. 研究課題の募集期間および選考時期」に示す募集期間内に下記提出先に提出してください(郵送は受けません)。

各添付ファイル名には、ご本人の氏名を付記し、統一したパスワードをつけてください。パスワードは、別メールにてお知らせください。

(*申請書類に含まれる個人情報については、学会の「農業農村工学会の個人情報の保護に関する基本方針」に基づき厳重に管理し、本事業の業務遂行以外には利用しません。学会ホームページ:<https://www.jsidre.or.jp>参照)

提出先: 農業農村工学会博士人材支援事業担当

E-mail: new-suido@jsidre.or.jp

11. 問合せ先

(公社)農業農村工学会 博士課程調査研究活動支援事業事務局

中 達雄, 中村充朗, 海老原茂樹

TEL: 03-3436-3418

E-mail: new-suido@jsidre.or.jp

FAXによる図書注文を廃止します

農業農村工学会事務局では業務効率化の一環として、2025年2月末をもってFAXによる図書注文を廃止いたします。2025年3月以降はE-mailにてご注文いただきますようお願い

いたします。

注文方法の詳細は学会ホームページ(<https://www.jsidre.or.jp/howtobuy/>)をご参照願います。

新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」、設計「頭首工」、設計「農道」の発刊

令和6年3月に制定された、土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」、設計「頭首工」、設計「農道」(農林水産省農村振興局編集)を令和6年10月に発刊いたしました。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込みください。

1. 発行書籍

書籍名: 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」基準、基準の運用、基準及び運用の解説、技術書

編集: 農林水産省農村振興局

価格: 1,760円(税込), 送料: 1冊200円(最大600円)

規格: A4判 173ページ

発行日: 令和6年10月10日

書籍名: 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計「頭首工」基準、基準の運用、基準及び運用の解説、技術書

編集: 農林水産省農村振興局

価格: 4,510円(税込), 送料: 1冊200円(最大600円)

規格: A4判 728ページ

発行日: 令和6年10月7日

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計
「農道」基準、基準の運用、基準及び運用の解説、
技術書

編集：農林水産省農村振興局

価格：2,970円（税込）、送料：1冊200円（最大600円）

規格：A4判 850ページ

発行日：令和6年10月7日

2. 申込み方法

I. 個人、法人の場合（賛助会員を除く）

- ① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先をご記入ください。
振替口座番号：00160-8-47993
加入者：公益社団法人 農業農村工学会
- ② 現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先

を書いた注文書をご同封ください。

- ③ 代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailまたはFAX（2月末まで）でお送りください。別途、送料の実費と代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をE-mailまたはFAX（2月末まで）でお送りください。

3. 申込み先

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会事務局 図書係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：suido@jsidre.or.jp

お願い!! 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付

ポストコロナの社会的状況を踏まえ学会では2024年度の学生年会費を免除しています。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、その一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。

この度、持続可能な農業農村工学教育のため「技術者育成のための調査・研究費」を学術基金から公募により必要な大学に支援する学術基金制度の拡充（⑦）を行いました。

使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

- (1) 学会の事業計画に沿った調査・研究（学会に一任）

（※特に記載がなければ（1）として扱います。）

- (2) 条件を付した寄付

選定条件【 】

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
 - ・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
 - ・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮

に資する技術開発

- ③ ①、②以外の分野および学際的分野に関する調査・研究の推進

・上記①、②以外、たとえばICTなど新たに取り組んでほしい技術

- ④ 国際学会会議への出席等の国際交流の推進

- ⑤ 若手研究者の育成の推進

- ⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進

・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理

・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など

- ⑦ 技術者育成のための調査・研究の推進

詳しくは学会ホームページ (https://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/) をご覧ください。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

公益法人である学会に法人が寄付すると法人税に対して税制優遇措置（一般損金算入限度額+特別損金算入限度額）が受けられます。また個人が寄付する場合は、所得税等の寄付金控除が受けられます。

学会誌企画・編集委員会 学生委員の募集

学会誌企画・編集委員会では、学生向けの企画などを担当していただく学生委員を募集いたします。

募集要領は次のとおりです。ふるってご応募ください。

1. 応募資格

- (1) 学生会員であること（応募時に入会も可）
- (2) 年3回程度開催の委員会（東京都港区新橋にて開催、近年はWeb併用）に出席できること（旅費を支給します）
- (3) E-mail, Web が使える環境にあること
- (4) 指導教官の承認を得ること

2. 任期 2025年4月から最長で2年。卒業、就職等で途中退任も可

3. 募集人数 2名

4. 応募締切 2025年3月31日（月）

5. 応募方法

下記①～⑦を記入の上、henshu@jsidre.or.jpまでメールでお送りください。

- ①会員番号, ②氏名, ③大学名, ④2025年4月からの学年, ⑤年齢, ⑥承認を得た指導教官名, ⑦連絡先メールアドレス

6. 問合せ

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会

TEL: 03-3436-3418

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

CPD 認定基準の一部改正（2024年度から）

— 「その他の自己学習（x）」の上限値等の見直し—

近年、品確法や建設業法の下でCPDが評価され、また日本技術士会では「技術士（CPD認定）」の運用が始まるなど、CPDの活用が進んでいます。その一方で、コロナ禍の行動制限によって研修の形態が「集合対面型」より、インターネットを介した「自己学習型」が増加し、参加証明が得難い研鑽機会も増大しています。

農業農村工学会技術者継続教育機構では、このような自己学

習型の研修実績を正当に評価するため、2024年4月より、業務運営細則に定める「別表2 教育形態区分表」を一部改正し、自己学習【x】の分類の記号を【x1】と【x2】に区別するとともに、年間上限値を他の主要なCPD運営体と同等の合計30cpd（現在は20cpd）となりました。

なお、自己学習型の記録申請には、これまでどおり証拠書類の提出は不要です。

【別表2】教育形態区分表の該当部分（下線部分を改正）

(改正後)

形態	分類Ⅰ	分類Ⅱ	記号	cpd単位	上限値	証拠提出
⑤自己学習型	「水土の知」による自己学習	「水土の知」の購読	x1	0.5H	10	-
	その他の自己学習	農業農村工学に関連する領域の図書・雑誌の読習、DVDの視聴、e-learningの受講、語学習得、展示会での情報収集等	x2	0.5H	<u>20</u>	-

(改正前)

⑤自己学習型	「水土の知」による自己学習	「水土の知」の購読	x	0.5H	10	-
	その他の自己学習	農業農村工学に関連する領域の図書・雑誌の読習、DVDの視聴、e-learningの受講、語学習得、展示会での情報収集等		0.5H	<u>10</u>	-

CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載

農業農村工学会技術者継続教育機構では、農業農村工学会員でもあるCPD個人登録者が在宅のままCPD単位が取得できることを目的に「CPD通信教育」を実施しています。

2021年9月より、技術者継続教育機構のホームページにそ

の時点で解答可能な「通信教育問題」と解答期限を過ぎた「解答」を掲載しています。学会誌がお手元に届くまでの間はホームページ上で通信教育問題をご確認くださいようお願いいたします。

学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集!!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10号から農業農村工学会誌「水土

の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会員であり、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得す

る大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌2号掲載の問題は3月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10問正解で2cpdを、7～9問正解で1.5cpdを自動登録

（正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません）

6. 自動登録の時期

取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

1. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎月テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨（A4判、1,500字程度、様式自由）を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を

検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原稿提出連絡日の約1カ月後です。本文原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守をお願いいたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがあります。

学会誌第93巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 締 切 (A4判1,500字程度)
第93巻第3号	令和6年能登半島地震の被害と課題（仮）	公募なし
4号	農村を安全に支えるには（仮）	終了
5号	食料供給の安定化と環境保全に資する農業生産基盤の新たな展開（仮）	終了
6号	これからのストックマネジメントのあり方（前編）（仮）	終了
7号	学会大会特集（予定）	公募なし
8号	これからのストックマネジメントのあり方（後編）（仮）	終了
9号	農村の振興や農業の有する多面的機能維持への貢献（仮）	3月10日
10号	農業農村工学における再生可能エネルギー利用（仮）	4月10日
11号	農業農村整備における情報化施工およびBIM/CIMの現状とこれから（仮）	5月10日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先（要旨および本文原稿など）

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL：03-3436-3418

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

※提出は、E-mailの添付ファイルにてお願い申し上げます。

学会誌第93巻第9号テーマ「農村の振興や農業の有する多面的機能維持への貢献」（仮）

人口減少や高齢化の進行に伴い、農村の維持が困難になりつつあります。このような背景の下、食料・農業・農村基本法が改正され、農村をめぐる情勢の変化が生じる状況においても地域社会が維持されるよう農村の振興を図ることの必要性が明記されました。これを受け、農山漁村政策の再構築を進める旨の総理発言があり、特に地域資源を活かした産業振興、人材の確

保、農村への人の呼び込みなどが重要な課題と位置づけられています。

また、農業の有する多面的機能は、農村地域での日常生活や農業生産活動などによって維持されています。これを支える手段として多面的機能支払交付金の制度があり、農地の維持や資源保全の活動を支えています。人口減少や高齢化は、こ

の制度を活用した組織の活動にも影響を及ぼしています。農業生産面では、ICTの導入によるスマート農業が目立っていますが、多面的機能の視点からも、農地維持や資源保全、農村集落の活性化に対する農業農村工学の貢献が問われています。

本小特集では、地域資源を活かした産業振興、農福連携や農泊の推進、次代への承継を見据えた人材の確保など、中山間地

域に限らずあらゆる地域を対象に、現場で取り組まれている農村振興に関する報文を募集します。また、多面的機能支払交付金制度の活用やスマート農業の導入による農地維持、資源保全、農村集落の活動活性化に関する取り組みや事例など、農業の有する多面的機能の維持に農業農村工学が果たす役割や今後の展望についての報文も広く募集します。

学会誌第93巻第10号テーマ「農業農村工学における再生可能エネルギー利用」(仮)

持続可能な開発目標 SDGs の目標7「すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する」のターゲットの一つに「世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる」ことが掲げられています。世界の再生可能エネルギー発電設備の容量は、2015年度に石炭を抜いて最も容量の大きい電源となり、その後も年々導入ペースが増加しています。わが国では2012年に「再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法」(再エネ特措法)の施行(2024年改正)により、固定価格買取制度(FIT)の導入がされて以降、再生可能エネルギーの普及が進み、総発電量に占める再生可能エネルギー電気の割合は2011年度の10.4%から2022年度時点で21.7%まで増加しました。

他方、農山漁村への再生可能エネルギーの導入は、土地、水、

バイオマス等の未利用資源の有効活用、地域内経済循環の創出による経済的メリットのほか、温室効果ガス排出削減、災害時の電力供給、地域コミュニティ維持等への活用が期待されます。農林水産分野においては、2013年に「農林漁業の健全な発展と調和のとれた再生可能エネルギー電気の発電の促進に関する法律」(農山漁村再生可能エネルギー法)が成立し、翌年に施行されました。本法成立・施行からおよそ10年が経過し、関連技術の進展やさまざまな取り組み事例・課題が蓄積していると考えられます。農山漁村における再生可能エネルギー普及への取り組みは農業農村整備事業の方向性や地域計画に関わり、情報共有は今後の展開に重要です。本小特集では、農業農村工学における再生可能エネルギー利用や普及について、技術報告や取り組み事例、今後の展望など、広く報文を募集します。

学会誌第93巻第11号テーマ「農業農村整備における情報化施工およびBIM/CIMの現状とこれから」(仮)

目指すべき未来社会として Society 5.0 が提唱(2016年)され、建築・土木分野ではBIM/CIMやICT施工の取り組みが進められ、実用は一部に限られています。農業分野ではドローンを活用した営農や農業機械の自動走行の取り組みが先行しつつ、施工現場では建設業界の人手不足や働き方改革を背景に3D建設機械が導入され、情報化施工が進展しつつあります。また、農林水産省による情報化施工および3次元データ活用に関するガイドライン、国土交通省によるBIM/CIM関連基準要領等が公開されています。

一方、実用化を進める段階では、必ずしもBIM/CIMデータが情報化施工や維持管理に対応できる訳ではありません。3次元データ取得におけるデータ互換の課題に始まり、設計から

施工に移行する段階での設計者と施工者、および施工管理から維持管理に移行する段階で施工者と維持管理者でそれぞれ必要な3次元データや情報に相違があります。また、3次元データの活用における多様な現場条件への対処や現場技術者の育成など多くの課題があり、その対応が求められているのが現状といえます。

農業農村工学分野でのDX進展に向けて、情報化施工およびBIM/CIMの活用における設計、積算、施工、施工管理、維持管理などの各プロセスやデータ移行で直面する課題と対応の現状、最新情報や今後の展望について、幅広く報文を募集します。

2. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿報文およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ(<https://www.jsidre.or.jp/journal/>)に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、『農業農村工学会誌』原稿執筆の手引き」

を熟読の上、小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員会あてに、ご投稿ください。

ご投稿に当たっては、投稿票・内容紹介・本文(テンプレート)の各ファイル(Word)を上記の学会ホームページからダウンロードし、原稿の作成にご使用ください。

改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧申込み案内

改訂6版 農業農村工学標準用語事典 PDF版およびWeb版の閲覧希望の皆様へ

改訂6版 農業農村工学標準用語事典は、2019年8月27日に発行し好評を得ていますが、下記に該当する冊子購入者の中

で希望される方には、学会ホームページ上で閲覧サービスを行っています。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧の手続きをお願い申し上げます。

- (1) 本用語事典の学会 Web 上で公開については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者（大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む）の中で希望される方へサービスを提供します。
- (2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂6版用語事典 Web 上閲覧希望」とメール件名に明記の上、氏名、会員番号および購入年月を付記して（学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む）、下記

E-mail 宛にお申し込みください。

suido@jsidre.or.jp

- (3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。
- (4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは、改訂6版農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版が付記されたコンテンツになります。なお、Web 版とは、改訂5版から改訂6版の編集において、時代や科学技術の変化にともない改訂6版から削除した用語の中から現在においても参考になる用語を取録したものです。

2026年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2026年発行の学会誌も引き続いて学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦勞が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号

学会誌第94巻（2026年第1～12号）

3. 写真などの種類

応募写真はA4以上B4以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙—光沢紙」を使用してください。四つ切りワイドも含まれます。なお、四つ切りは254×305mm、同ワイドは254×356mm、A4は210×297mm、B4は257×364mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。データを送信する場合は一点につき20MB以下とし、これを超えるものはCDまたはDVDにて送ってください。形式はJPEGのみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切

2025年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したものに限りません。

6. 審査

審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第94巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は2026年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者は、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」にご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1点につき1万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 使用権・出版権

採用作品の使用権および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の学会誌への掲載、肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページ（<https://www.jsidre.or.jp/format/>）より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mailアドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名義（固有名詞）、対象

物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL : 03-3436-3418

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

**国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと
2024年7月から2026年6月までの編集体制と編集事務局**

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」(略称: PAWE) を発行しています。なお、Paddy and Water Environment 誌の略称は、これまで PWE としておりましたが、2022年11月の国際集会以降は PAWE に統一されることとなりました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2023年のインパクトファクター (IF) は1.9であり、国際ジャーナル誌としての位置づけが確立しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災 (施設管理, 地すべり, 気候変動, 災害防止など)
- ⑧ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑩ 水田の多目的利用 (田畑輪換, 施設園芸)
- ⑪ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界12カ国から Editor (22名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

2024年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

• Editor-in-Chief

Dr. Toshiaki IIDA

Faculty of Agriculture, Iwate University, Japan

• Associate Editors-in-Chief

Dr. Seong-Joon KIM

Konkuk University, Korea

Dr. Yu-Pin LIN

National Taiwan University, Taiwan

• Editors 12カ国から22名

• Editorial Advisors 27名

• Chief Managing Editor

Dr. Tasuku KATO

Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology, Japan

• Managing Editors

Dr. Eunmi HONG

School of Natural Resources and Environmental Science, Kangwon National University, Korea

Dr. Taeil JANG

Department of Rural Construction Engineering, Chonbuk National University, Korea

Dr. Kuo-Wei LIAO

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taiwan

Dr. Katsuyuki SHIMIZU

Faculty of Agriculture, Tottori University, Japan

Dr. Naoko OKA

Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Sciences (JIRCAS), Japan

編集事務局 (2026年6月まで日本担当)

Dr. Tasuku KATO

Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology, Japan

TEL : +81-42-367-5757

E-mail : taskkato@go.tuat.ac.jp

投稿先 : オンライン投稿 (<https://link.springer.com/journal/10333>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PAWE 誌の購読者であること。

投稿要領等 : <https://link.springer.com/journal/10333/submission-guidelines> に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年4回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 9,900円 (税込)

学生会員（院生含む）4,950円（税込）

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度

からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先：農業農村工学会事務局（suido@jsidre.or.jp）まで
員番号を明記の上、お申し込みください。

令和6年度農業水利研究部会研究集会の開催

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農業水利研究部会では、令和6年度農業水利研究部会研究集会を下記のとおり開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

1. 期日 令和7年2月15日（土）14：00～16：00
2. 場所 東京農業大学世田谷キャンパス1号館111教室
東京都世田谷区桜丘1-1-1
最寄駅：小田急線経堂駅下車 徒歩15分
3. テーマ 農業水利における気候変動対策
4. 講演者と講演題目

講演者：倉科稀世紀（東京農業大学大学院地域環境科学研究科）
題目：間断灌漑が水稻の生育・収量・水生産性に及ぼす影響
概要：間断灌漑は水田からのメタンガス排出削減に効果を及ぼすことが知られている。ここでは、地域が異なる水田土壌を用いて間断灌漑の効果を水稻の生育・収量・水生産性、およびメタン排出削減量から検討した結果を報告する。

講演者：進藤惣治（国際農林水産業研究センター）

題目：水利組合の育成による広域水田での間断灌漑実施に向けた取り組み

概要：東南アジアでは水稻の2期作、3期作が行われ、水田からの温室効果ガスであるメタンの排出量がきわめて多い。間断灌漑によりメタン排出が削減できることは広く知られているが、田越し灌漑が多いため、数十haの広域水田では実現していない。ここでは、水利組合の育成による組織的な間断灌漑の実施をカンボジアで試みており、その経過を報告する。

5. 参加費 不要
6. 参加申込みおよび問合せ先

農業水利研究部会事務局
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350
宇都宮大学農学部農業環境工学科 松井宏之
TEL&FAX：028-649-8638
E-mail：matsuih@cc.utsunomiya-u.ac.jp

令和6年度東京フォーラム（農村振興研修会）「農業農村整備へのICTの導入」の開催

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 主催 全国農村振興技術連盟・農業農村工学会
2. 開催日時 2025年2月12日（水）10：00～17：00
3. 会場 TKP新橋汐留ビジネスセンター ホール201
〒105-0004 東京都港区新橋4-24-8 2東洋海
事ビル
ハイブリッド方式（会場よりTeamsウェビナーを使用しオンライン配信）
4. 参加費 4,000円（会場、オンラインともに）
5. 問合せ先

全国農村振興技術連盟
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館内
TEL：03-3434-5407 FAX：03-3578-7176
E-mail：kensyu@n-renmei.jp

6. その他
詳しくは令和6年度東京フォーラムのホームページ（https://www.n-renmei.jp/training/training01_2.html）をご覧ください。